

Daily Report (号外)

～10月の米国消費者物価指数について～

結果概要

米国労働省が11月10日に発表した10月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+7.7%上昇と、市場予想(同+7.9%)を下回り、インフレピークアウトの兆候が垣間見える内容となりました。また、CPIと同様に、エネルギーと食品を除くコアCPIも前年同月比+6.3%と市場予想(同+6.5%)を下回り、前月(同+6.6%)から伸びが減速しました。前月比でもコアCPIは+0.3%と市場予想(同+0.5%)を下回る結果となったことで、サービス業を中心に高インフレの状況が解消しつつあることを示唆する内容でした。

CPIに対する内訳毎の寄与度では、自動車燃料価格は前月比+4.0%となり、前月(同▲4.8%)から4か月ぶりに反発した一方、食料品価格(同+0.6%)が前月(同+0.8%)から減速した他、航空費(同▲1.1%)も前月(同+0.8%)の上昇から下落に転じており、CPI全体の押し下げに寄与しました。また、コアCPIの内訳をみると、中古車価格(同▲2.4%)は4か月連続で下落、新車価格(同+0.4%)も前月(同+0.7%)から伸びが減速しました。コアサービスでは、住居賃貸(同+0.7%)は前月(同+0.8%)に比べ減速、帰属家賃(同+0.6%)も前月(同+0.8%)に比べ伸びは減速するなど、全体的にインフレ圧力の一服感が見られました。

市場反応(米国市場)

10日の米国株式市場は米国主要3指数が揃って大幅に上昇しました。

CPI、コアCPIともに市場予想を下回る結果となったことを受け、FRBが12月以降のFOMCで大幅利上げを継続するという警戒感が後退したことや、来年の早い段階での利上げ休止期待、インフレのピークアウト観測などが好感され、NYダウ平均株価は前日比+3.70%、S&P500指数は同+5.54%、ナスダック総合指数は同+7.35%と1日の上昇率では2020年4月以来の大幅な反発となりました。

個別銘柄では、アップルが前日比+8.90%、マイクロソフトが同+8.23%、エヌビディアが同+14.33%となるなど大型ハイテク株の上昇が目立ちました。

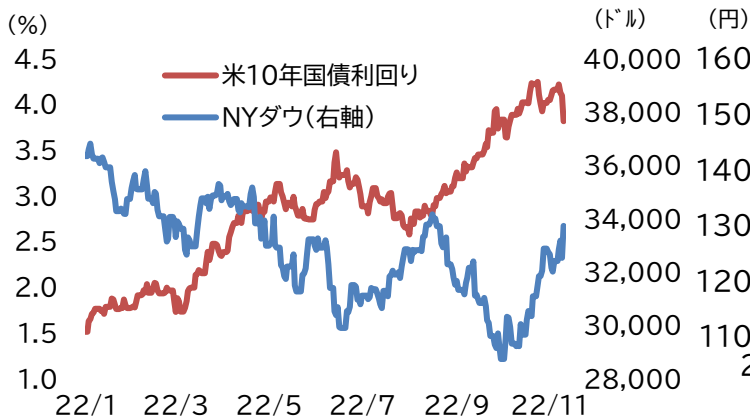
一方、米国債券市場は今回のCPIの結果を受けて、インフレのピークアウトが示唆されたほか、12月以降のFOMCにてFRBの利上げペースが鈍化するとの期待が高まったことで買われ、10年国債利回りは約1か月ぶりの低水準となる前日比▲0.28%の3.81%程度で引けました。

米ドル/円はCPIの結果を受け、今後FRBの利上げが減速に転じるとの見通しからドル売りが優勢となり、一時1ドル140円台とCPI発表前から6円程度の円高が進んだ後、前日比5円49銭円高ドル安の140.98円/ドルで取引を終えました。

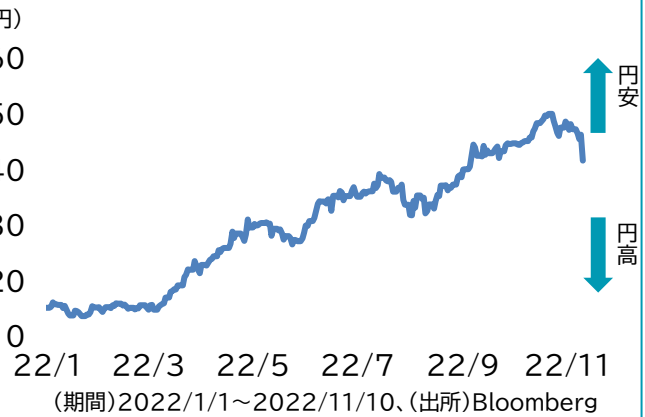
原油先物市場は、中国での新型コロナ感染拡大による行動規制強化の報道が上値を重くした一方、市場予想を下回るCPIの発表を受け、FRBによる大幅な利上げ継続観測が後退したことで、深刻な景気後退入りは回避できるとの期待が高まり、WTI原油先物12月限は前日比+0.75%の1バレル=86.47ドルとなりました。

Daily Report(号外)

NYダウと米10年国債利回りの推移



米ドル/円の推移



評価・今後の見通し

FRBの金融政策については、10月分の雇用統計が強弱入り混じる内容だったことを受け、市場の予想する12月FOMCでの利上げ確率は75bp予想が一時上昇したものの、11月9日時点では50bp予想が約57%で優勢と、判断が分かれていました。一方で今回のCPIの伸びの減速を受け、11月11日時点で50bp予想が約85%となるなど、金融引き締めペースを緩めるとの見方が大半となりました。また、米金利先物市場が織り込むターミナルレート(利上げの最終到達点)はCPI発表前(11月9日時点)の5.039%から足元(11月11日時点)では4.918%に低下しました。

FRBのパウエル議長は11月2日のFOMC後の会見で、利上げペースの減速を示唆しつつも利上げ終了時の金利水準はより高くなるとの見通しを示しており、今後は利上げ幅よりも利上げの休止時期により焦点が集まると予想します。利上げペースとしては、9月以前は年内にかけて減速し、年明けの利上げ休止がメインシナリオとなっていました。インフレのピークアウトの判断については不透明要素も多く、年明け以降も小幅での利上げが継続される可能性が高いと考えます。

目先は今月15日発表の米生産者物価指数(PPI)の結果や16日発表の米小売売上高で消費の伸び鈍化が確認されるかどうか、来月1日発表の米ISM製造業指数での企業の景況感動向などに注目が集まるものと考えます。

今後の株式市場の見通しとしては、短期的にはFRB高官による発言や各経済指標の発表を受けた12月のFOMCでの利上げ幅やFFレート予想(ドットチャート)に対する思惑次第で引き続き上下に大きく振れやすい展開を想定しています。長期的には、米業績見通しの悪化による下振れリスクやリセッション懸念に注意が必要と考えますが、FRBの利上げペースの減速やインフレピークアウトの確信度が高まったタイミングでは株式市場は次第に緩やかな上昇に向かうと想定します。